



東地中海地域ニュース

シリア：対レバノン関係・バッシャール大統領インタビュー (9月30日付現地各紙)

29日、バッシャール大統領は現地を訪問したムルハム・カラム・レバノン編集者組合長のインタビューに応じ、レバノン関係・アラブ諸国関係等発言している。

1. レバノン関係

- (1)レバノン北部は、危険なイスラム過激派の基地となった。シリアは過去数年間、中東地域に対する誤った政策がテロの温床を築くことを警告して強調してきた。シリアは占領・暴力・テロに抵抗する取り組みを内政・外交面で継続してきた。現在テロの病原に組み込み、全ての人々が安全な生活を送るために団結する重要性を改めて協調する。
- (2)スレイマン・レバノン大統領のシリア訪問は両国関係に新たな1ページを開いた。レバノンの諸勢力との関係は、シリアによるレバノンへの内政干渉ではない。自分(バッシャール大統領)はスレイマン大統領に対し、同大統領を全面的に支持すると伝えた。
- (3)外国による干渉を排除したドーハ合意は、レバノン内戦の危険性を回避した。シリアは当地を訪問する全ての勢力を歓迎する。
- (4)自分のレバノン訪問は、両国大使館開設にあわせて行うものではないが、シリアにはレバノン国民が求める形でレバノンを支持する用意がある。両国関係の緊密化は経済都市において始まっている。
- (5)国際法廷はレバノン及び国際社会の問題である。ハリーリ元首相暗殺事件の犯人を明らかにすることは、シリアにとっても直接的に利益となる。
- (6)レバノン人行方不明者に関しては、両国共同委員会が取り組みの結果を報告するであろう。
- (7)両国関係は第3国が介入した場合、改善することはない。大使館開設と主権を認め合うことは別次元の問題である。シリアは常にレバノンの主権を認めてきた。

2. アラブ諸国・国際関係

- (1) サウジとの関係は重要であり、牽制しあうことは利とならない。シリアはレバノン政府を犠牲にしてレバノン抵抗勢力を支持したことはない。
- (2) パレスチナ人は内部分裂の代償を払っている。シリアとハマスの関係は良好であるが、その関係はアッバース PA 大統領との関係と同等である。
- (3) 米国は、イラクの政治プロセスを推し進める気はない。他方、欧州は客観性を確保するよう米国を支援することができる。
- (4) シリア・イラン関係は、シリア・アラブ諸国関係を犠牲にせず、むしろ中東地域の安定に寄与している。シリアとイスラエルが和平協定を締結しても、それがシリア・イラン関係に影響することはない。
- (5) 米・イスラエルによるシリアに対する圧力強化は終わっていない。従って、シリア国軍の発展を止めることはない。
- (6) シリア・トラックの間接交渉は未だ何の成果も出ていない。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799